

「野生司香雪って・・・誰でしたか？」

宮原 豊 (9組)

野生司香雪の命日3月28日に、自分のホームページを立ち上げました。まだ新米ですが、徐々に内容を充実させていきたいと思いますので、詳しくは下記 URL からご覧ください。 <https://yutakamiyahara.jimdofree.com>

「野生司香雪（ノース・コウセツ）」とは聞きなれない名前ですが、昨年10月に投稿したことがあります。昭和10年頃にインド・サールナートの仏寺本堂に「釈尊一代記」の壁画を描きました。足掛け5年掛りで偉業を達成し、帰国後は長野の善光寺の壁画などを描き、戦争疎開も合わせて30数年を北信州で過ごし、昭和48年（1973年）に88歳で世を去りました。晩年の香雪のことは生まれた香川県より長野県によく知られています。

ここでご紹介するのは、長野市篠ノ井の「圓福寺」所有の野生司香雪の作品についてです。

上田高校関東同窓会の先輩・白井透様(60期)から、上田高校校長を務められたことのある藤本光世先生が住職をされている圓福寺様に縁が広がりました。野生司香雪画伯のサールナートの壁画修復事業のことを聞かれて、先代の住職（父上様）が、縁あって野生司香雪の絵を本堂の天井絵にされているとご連絡をいただきました。更にインドの「釈尊一代記」壁画のミニチュア版と思われる7図が額縁に収められ本堂に掲げられているそうです。托胎、降誕、出城、牧女の供養、成道、転法輪、涅槃の7図です。近隣のお寺でもご覧になったことがあるそうですので、北信州一円に残されているのかもしれませんが。



また、以前開催された「平等院特別企画展」でも同様の絵をご覧になったとのことで藤本先生からサイトを紹介してもらいました。平等院の展示会は、京都龍谷ミュージアム、宮城県松島・瑞巖寺にも巡回されたそうです。(<https://www.byodoin.or.jp/news/special/post-15/>)

圓福寺本堂の天井絵は2枚、「天女」と「鳳凰」。縦横1間半の大きなもので、それは「画伯の心の美しさが顕れた絵」であります。

上の写真は「成道（じょうどう）の図」です。

圓福寺公式サイト <http://ryu-enpukuji.com/>

